みんなのＳＤＧｓの紹介！

６月号で募集した「みんなのＳＤＧｓ」。９月号に続き、日本福祉大学の学生と行ったインタビューの内容を報告（第２弾）します。また、同時に募集していた個人版「みんなのＳＤＧｓ」も紹介します。身近に取り組まれているＳＤＧｓを知って、みんなでＳＤＧｓに取り組んでいきましょう♪

第３弾の１月号もお楽しみに！

NPO 法人はんどいんはんど

岩倉を拠点に訪問型病児保育を行っている団体

インタビュアー：
日本福祉大学４年　岩崎右城さん

3 すべての人に健康と福祉を　5 ジェンダー平等を実現しよう　8 働きがいも経済成長も　17 パートナーシップで目標を達成しよう

「病児・病後児保育がなくなる社会を目指す！」

このようなゴールのため、岩倉市内外で活動しているのがNPO法人はんどいんはんど。

私たちの身近には子育てが“孤”育てになってしまっている現状があります。突然の病気、発熱の子どもたちの保育・保護者をケアする子育て支援など、サポートを行っています。

本来であれば、社会や企業が“子育て”を理解し守っていかなければならない課題です。一人ひとりが認め合い理解しあえる社会であれば“孤”育てになることはありません。

これらの取り組みは、ＳＤＧｓの健康と福祉やジェンダー、働きがい、地域づくり、また、貧困問題、他機関とのパートナーシップなどの目標達成につながっています。身近な子育て世代に目を向けてみましょう。未来を担う子どもたちへの支援は、持続可能な社会の実現への近道の一つです。

病児保育の様子

▲NPO法人はんどいんはんど
廣中大雄さん

個人版「みんなのＳＤＧｓ」

17の目標のうち、コロナ禍ということで、家庭でもできる身近な取り組みの投稿を紹介します。

7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに

- 電気・水道の無駄遣いをしない。
- 車での移動を減らす。燃費のいい車に乗る。
- 必要ないときにお湯が出ないように設定した！
- お米を研いだ水を調理後のフライパンを洗うのに使ってます。

12 つくる責任 つかう責任

- 食材を余すところなく使う。
- 本当に必要な分だけ服を買う
- 買い物は食べきれる分だけ
- マイバッグ、マイカトラリーやマイボトルを使って、不要な消耗品をお断り

ご覧のように、今回ご紹介したＳＤＧｓは家計の節約にもつながるものも多いです。そう考えると取り掛かりやすいのではないでしょうか。ぜひ一度、自分の暮らしでできそうなＳＤＧｓについて考えてみてください。

●問合先　秘書企画課企画政策グループ（☎ 38-5805）